

研究制度 評価結果概要一覧

番号	課題名	研究主体	研究期間	総事業費	制度の概要	研究制度実施(概算要求)の適否に関する所見	今後検討を要する事項に関する所見	総括評価
1	安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業(組替新規)	民間団体等	令和2年度～令和6年度	46億円	安全な農畜水産物・食品を国内外に安定供給するためには、食品中に含まれる有害化学物質・有害微生物、動物の伝染性疾病や植物の病害虫に関するリスク管理を、科学的知見に基づいて実施していくことが必須である。このため、食品安全、動物衛生、植物防疫等の分野において、行政施策・措置の検討・判断に利用できる科学的知見を得るための研究(レギュラトリーサイエンスに属する研究)を実施する。	・突発的に発生する課題への対応や政策的な研究を進めていくという本事業の重要性は極めて高く、本研究制度を実施することは適切である。	・アウトプット目標やアウトカム目標について総事業費に照らして妥当であるという国民の理解を得るためにも、積極的に定量的あるいは金銭的に提示していただきたい。 ・現状のアウトプット、アウトカムの記載状況であれば、予算要求の抜本的な見直しが必要ではないかとの意見もあった。	B

※総括評価は、以下の3段階で評価。
A: 研究制度は重要であり、内容は適切。
B: 研究制度は重要であるが、制度の仕組み等の内容の見直しが必要。
C: 研究制度は不適切又は、内容の抜本的な見直しが必要。

研究課題 評価結果概要一覧

番号	課題名	研究主体	研究期間	総事業費	制度の概要	研究の実施(概算要求)の適否に関する所見	今後検討を要する事項に関する所見	総括評価
1	農林水産研究推進事業 現場ニーズ対応型プロジェクトのうちプロジェクト型(新規)	民間団体等	令和2年度 ～ 令和6年度	40億円	農林水産業の競争力強化のためには、現場では解決できない技術的問題などのニーズを踏まえ、農林漁業者等が求める研究目標に基づき研究開発を行い、その成果を速やかに社会実装していくことが求められている。そこで、先進的な農林漁業者等が直面する技術的な課題や研究課題候補に関する意見を聴取・課題化し、現場の課題の解消に直結する技術開発を推進する。	・先進的な農林漁業者等が直面する技術的な課題の解決に直結した技術開発は重要であり、各研究のアウトカム目標も明確になっているため、本研究の実施は適切である。	・評価個票がいろいろな課題をただ束ねている印象があるので、研究課題の概要やアウトカムの部分で、事業全体のまとめを行うことを検討されたい。 ・すべての課題が5年間で計画されているが、実証試験等をしていく中で5年間では終わらないものもあると思われるので、中間時の評価を行い、1、2年の延長あるいは成果の出ないものは途中でやめるなど柔軟な対応がなされることを期待する。	A
2	農林水産研究推進事業 脱炭素・環境対応プロジェクト(新規)	民間団体等	令和2年度 ～ 令和6年度	45億円	パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略では、今世紀後半のできるだけ早期に「脱炭素社会」を実現するとともに、2050年までに80%の温室効果ガスの排出削減に向けて施策に取り組むこととされている。このため、本プロジェクト研究課題では、「長期戦略」において農林水産分野で取り組むべき温室効果ガス(GHG)排出削減対策及び炭素吸収源対策を推進する上で不可欠な技術開発を行う。また、脱炭素社会を実現しても気候変動による農業環境の変化は不可避であり、近年、懸念される極端な気象現象(極端気象)による農業への影響、被害の低減のための技術開発を行う。	・「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」から、「脱炭素社会」の実現を目指すこの課題は国として非常に重要であり、本研究の実施は適切である。	・40数億円の事業費(見込)で温室効果ガスがどの程度削減されるのかについて、可能性という前提で試算し数値で示されたい。 ・試算の際には、海外の農業現場に技術普及されたときの効果についても検討いただきたい。 ・農業者にどのような負担やメリットがあるかについても考慮し、実施されることを期待する。	A
3	農林水産研究推進事業 次世代育種・健康増進プロジェクト(拡充)	民間団体等	令和2年度 ～ 令和6年度	29億円	最先端技術を用いた育種を推進するとともに、次世代のバイオ農業展開のため技術を開発する。 さらに、「健康に良い食」に貢献する機能性等に優れた品種開発を加速化し、ゲノム編集技術を用いた新たな育種素材の開発を推進するとともに、海外特許に抵触せず、高効率、高性能な国産ゲノム編集技術を開発する。 また、我が国の優良品種の海外流出を防止するため、迅速な品種識別技術を新たに開発する。	・農業競争力の強化、生産者の収益向上、消費者のニーズに対応するため、最先端のゲノム編集技術を活用した品種開発の重要性は高く、マクロ的なテーマとして今こそやらなければならない重要なテーマであり、本研究の実施は適切である。	・地球的な課題に対応している重要な課題であることに触れ、課題推進の価値について明確に示していただきたい。 ・ゲノム編集技術を蓄積し向上させることにより「我が国の食料安全保障に寄与する」等の大きな目標も念頭に入れつつ実施されることを期待する。	B

※総括評価は、以下の3段階で評価。
A: 委託プロジェクト研究課題は重要であり、内容は適切。
B: 委託プロジェクト研究課題は重要であるが、内容の見直しが必要。
C: 委託プロジェクト研究課題は不適切又は、内容の抜本的な見直しが必要。